

施策評価表

1次評価日（課長等） 26年 9月 30日

2次評価日（部長等） 26年 9月 30日

1 施策の概要

施策名	上下水道の整備・維持	コード	9-5
この施策の主な内容（細施策）	①水道施設の整備、更新、②水質管理体制の強化、③水道危機管理体制の強化、④水道事業の円滑化、⑤諏訪湖流域下水道の整備促進、⑥公共下水道の整備および管理、⑦公共下水道事業の円滑化、⑧温泉の維持管理		
第4次総合計画におけるこの施策の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活・事業活動に欠かせない安全でおいしい水を安定的に供給する。 ・生活環境の向上と公共水域の水質の保全のため生活・事業廃水の安定的な排除を行う ・市内唯一の温泉を安全かつ安定的に供給する。 		
担当部課	部 建設水道部	課等 水道課	作成者 山本 文明

●施策の実施内容（D0）

2 施策指標の達成状況

*第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：25年度）

施策指標名	単位	23年度	24年度	25年度		26年度	27年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値	達成率	目標値	目標値
① 水道水の水質基準適合率	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	100.0
指標説明	安全で良質な水の供給（水道法に基づく水質基準に適合する割合）							
② 経常収支比率（上水道事業）	%	107.2	104.4	107.0	106.4	99.4%	115.6	113.3
指標説明	企業の健全性を見る指標で高いほど良く、100%未満は経営損失が生じることを意味する。							
③ 経常収支比率（下水道事業）		105.9	108.2	105.0	105.0	100.0%	110.7	110.9
指標説明	企業の健全性を見る指標で高いほど良く、100%未満は経営損失が生じることを意味する。							

3 施策全体にかかる合計コストの推移

*項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示

単位：千円

	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）
直接事業費	3,829,119	3,644,490	3,732,814	4,135,220
人件費	209,685	209,680	209,765	209,156
合計コスト	4,038,804	3,854,170	3,942,579	4,344,376

●施策の評価（CHECK）

4 施策の現状評価

*25年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

・上水道事業については、人口減少や節水意識等により水需要の減少が続いている。水質管理や危機管理対応を重点とした施設も管理に取り組み、水道水の水質基準適合率は指標目標値を達成できたが、経常収支比率は、指標目標値を達成できなかった。

・下水道事業も上水道と同様に、汚水量の減少が続いたが、管路整備による未整備区域の解消を図るとともに普及促進に努め下水道普及率、経常収支比率ともに指標目的値を達成できた。

・温泉事業は、利用者減少に歯止めがかからず、経費の削減に努めたが、単年度赤字となった。

*岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	上水道：地下水、湧水が多いため、湧水に強く、おいしい水である。 下水道：普及率、接続率ともに高い。
岡谷市の弱み	上水道：水源施設が多く、老朽化が進んだ施設もあるため、維持管理費が大きい。 下水道：マンホールポンプが多く、維持管理が大きくなりやすい。

5 今後の外部環境の変化

*27年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	気象要因や景気状況が好転し企業活動が活発化すると、水需要の回復が期待できる。
不利に働くもの	人口減少、節水意識の高まりが水需要の減少につながる。

●改善の内容 (ACTION) / 次年度の計画 (PLAN)

6 平成27年度 施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

* 優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
 * 見直しを行う分野＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	・生活スタイルの変化や節水意識の高まり加えて、人口が減少する中、今後も水需要の減少傾向が続くことが予想されるが、安心して飲める安全で良質な水を安定的に提供していくためには、引き続きコストの縮減に努めながら、水道事業においては、水道施設基本計画に基づき、老朽施設等の計画的な改良や更新、耐震化を図り、また、下水道事業では長寿命化計画、総合地震対策計画により、事業を進め、ともに災害に強い施設整備と危機管理体制を強化していく必要がある。
見直しを行う分野	温泉事業は、スタンド利用者減が年々進んでいる。加えて施設の老朽化に伴う維持管理費の増が懸念されており、今後、経営状況の悪化が予想される。ロマネット、諏訪湖ハイツ等への給湯を継続するため、温泉スタンドの廃止を視野に入れた事業の見直しをする。

●27年度の優先度

* 事務事業の方向性が「継続」の事業についてA～Cにランク付け
 A：拡大、B：現状維持、C：見直し、－：廃止・完了・統合

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	指標名	単位	成果指標				妥当性	方向性	優先度
							直接事業費		人件費				
							23年度	23年度	23年度				
							24年度	24年度	24年度				
							25年度	25年度	25年度				
							26年度	26年度	26年度				
1	建設	あり	水道施設整備事業 (4条)	進捗率	%	166.8	450,212	16,000	高い	継続して実施	A：拡大		
						203.8	473,506	16,000					
						238.2	441,648	16,000					
							450,782	16,000					
2	一般	なし	水道収益事業 (3条)	給水単価 (税抜き)	円	137	646,904	112,000	高い	継続して実施	B：現状維持		
						137	687,033	112,000					
						137	645,432	112,000					
						138	722,577	112,000					
3	建設	その他	下水道施設整備事業 (4条)	進捗率	%	252.1	1,431,467	8,000	高い	継続して実施	A：拡大		
						284.0	1,270,013	8,000					
						319.7	1,419,679	8,000					
							1,333,130	8,000					
4	一般		下水道収益事業 (3条)	下水道使用料単価 (税抜き)	円	170	1,278,488	72,000	高い	継続して実施	B：現状維持		
						170	1,192,554	72,000					
						170	1,205,034	72,000					
						170	1,612,128	72,000					
5	公共施設		温泉施設管理事業	施設稼働率	%	99.2	22,048	1,685	高い	継続して実施	C：見直し		
						99.5	21,384	1,680					
						99.5	21,021	1,765					
							16,603	1,156					
6													
7													
8													
9													
10													